

事業計画書

1	事業名称	ごみを減らしてSDG s & CO2削減！世田谷区民の行動が変わる普及啓発
2 協働事業の内容及び実施方法	(1)事業の目的	<p>ごみ削減に向けて、区民一人一人に情報を「伝える」だけでなく、「伝わる」工夫を凝らし、その後の行動変容に結びつけていくことが大切である。</p> <p>個人のライフスタイルがSDG s、CO2削減と深くかかわっていることを具体的に理解でき、日々の行動につながる情報を伝える。</p> <p>ごみ削減という大きな課題の内、身近な食品ロスに焦点を当てることで、毎日の一人一人の生活と地域、経済、社会、環境等のつながりに気がついてもらい、行動変容につなげていく。</p>
	(2)事業の内容 *実施体制や実施手法を含めて記入すること。	<p>1. 区民向けセミナーの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テーマは「食品ロス削減」 ・全2回（場所を変えて2か所で開催） ・各回のテーマに沿った事業者、学識経験者等の講師を呼ぶ。 ・毎回、前半に講演/情報提供・質疑応答。後半にグループワークを行う。 ・参加者に対して、持ち帰り容器の提供など、参加意欲を高める工夫をする。 <p>①食品ロスの現実を知る</p> <p>食品リサイクル工場を動画で見学 世界・日本・世田谷の食品ロスの解説 家庭系、事業系それぞれの食品ロスの行方 SDG sとは？CO2削減の意義 家庭で出来ること、エシカル消費、ロスを出さない保存や調理のコツの情報提供等（お徳感）</p> <p>②事業者の取り組みと自分にできること</p> <p>「せたがやエコフレンドリーショップ」「mottECO」の紹介 世田谷区、東京都、国の取り組みを紹介 世田谷区清掃・リサイクル部事業課からの情報提供、都や国の取り組みについて元気ネットからの情報提供、事業者の取り組み等について専門家からの情報提供、「mottECO」導入モデル事業および事業者（コンビニ、ホテル等の取り組み）の情報提供等</p> <p>「もったいない」「すぐたべくん」「てまえどり」「るすのん」の紹介 循環型社会構築、CO2削減に向けて、一人一人ができることを考える</p> <p>《関連の最新情報を知り、日々の暮らしに役立てるための講師を選定》 講師候補案 日本フードエコロジーセンター 社長 高橋巧一氏 日本女子大学 教授（フードシステム論） 小林富雄先生 東京農業大学国際食料情報学部国際農業開発学科 准教授 入江満美先生 ◆小林先生、入江先生には打診し、講師候補及び事前ヒアリングの学生紹介は承諾済み</p> <p>2. デジタルコンテンツ作成への参画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコプラザ用賀、リサイクル千歳台（年間来場者数合計：約5万人）でのモニター等を使用したデジタルコンテンツ作成に関して、元気ネットが協力する。 ・元気ネットがこれまでの一般市民への普及啓発から得た知見を、シナリオ作成、デジタルコンテンツ作成に活かす。 <p>◆1. 2. とともに、企画段階から、食品ロス削減に興味・関心を持っている子育て世代や学生等に事前ヒアリングを行い、若い世代の感覚・視点を取り入れる。</p>
	(3)令和5年度 事業完了予定日	令和6年 2月 29日

3 協働の必要性及び役割分担	(1) 区の担当課	清掃・リサイクル部事業課	
	(2) 協働する意義・必要性	世田谷区が令和4年7月に策定した「世田谷区食品ロス削減推進計画」では、区民・事業者・行政がそれぞれの役割を認識し、連携をとりながら、食品ロス削減に取り組むことにしている。 NPO元気ネットは、廃棄物をテーマに26年間の活動実績があり、一般市民向け普及啓発の豊富な経験がある。 理事長、事務局が国や都の審議会の委員を務めていることから、事業者、学識経験者、専門家等、豊富な人脈があり、適切な講師を推薦できる。理事長の鬼沢は、環境省「食品廃棄ゼロエリア創出モデル事業等」検討会委員を昨年度から務めている。 以上のことから、清掃・リサイクル部事業課とNPO元気ネットが協働することにより、区民・事業者・行政の視点を持って本事業を実施することができる。	
	(3) 役割分担	提案団体	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の推薦と依頼 ・セミナーの運営、資料作成等 ・デジタルコンテンツへの提案 ・一般市民にとって理解が難しい点、今日からやろう！と思えるわかりやすいポイント等の提供 ・子育て世代、学生等への参加働きかけ、ヒアリング
		区担当課	<ul style="list-style-type: none"> ・セミナー受講者に対する「世田谷区食品ロス削減推進計画」の周知。 例：世田谷区の食品ロスの現状等 ・エコプラザ用賀、リサイクル千歳台（年間来場者数合計：約5万人）でのモニター等を使用したデジタルコンテンツの作成、配信等、普及啓発活動（世田谷区食品ロス削減推進計画 施策5-1-1）
(4) 地域の団体との連携	≪連携先候補≫ 東京農業大学、日本女子大学 ボーイスカウト東京連盟		
4 協働の成果・効果	(1) 期待される具体的な成果や区民・地域への波及効果及びその測定方法	(団 体) 食品ロスは、あらゆる世代にとっての課題であるが、特に多くの食品を消費する子育て世代や若者に購買、外食、調理、保存等における情報を届けることによって、より効果的に食品ロス削減をはかれると考える。 食品ロスについては大まかに知っているという人は多いが、事業者の取り組みについては、ほとんど知られていないのが現状である。事業者の取り組みを消費者が知ることにより、購買や外食等に活かし、各家庭での削減の取組が加速すると思われる。 参加者へのアンケートにより、講座前後の知識・意識・行動の変化等を測定する。 企画段階から参加した方の所属団体や学校等での情報の拡散が見込める。	
		(区担当課) 企画段階から子育て世代や学生等の若い世代に参加してもらうことで、将来にわたって「環境に配慮した持続可能な社会」の実現に向けて働きかけることができる。また、セミナーではこれまでの団体の活動実績を活かし、国、都、事業者の取り組みの紹介をし、その中で、世田谷区の現状を知ってもらう機会を作ることで、より身近な問題として「食品ロス問題」をとらえ、区民の日常生活の中でできる行動を促進していく。	
	(2) 事業の成果の活用方法、将来の展開	(団 体) 初年度の結果を踏まえて、ごみ減量に効果がある普及啓発を、食品ロス以外の廃棄物・資源化にも広げて取り組んでいくことで、世田谷区のCO2排出削減、ローカルSDGsの推進に貢献したい。	

[令和5年度提案型協働事業 様式]

		<p>(区担当課)</p> <p>本協働事業により区民・事業者が食品ロス問題について把握した後、区民と事業者の協働事業による食品ロス削減動画作成やワークショップの開催等、主体的な行動につなげていく。</p> <p>持続可能な社会の実現のために世界全体で取り組むべき目標として掲げられた「SDGs」には食品ロスに関連する内容が多くある。食品ロスの問題を単なる食べ物の無駄ととらえるのではなく、地球温暖化や貧困、飢餓といった問題とも結びついていることを意識してもらい、身近なことから解決に取り組んでもらえるよう普及啓発活動を行っていく。</p>
<p>5 その他</p>	<p>*提案する事業と関連する団体の特徴、専門性、実績、提案、事業実施に向けたアピールなど</p>	<p>元気ネットは、1996年に発足以来、廃棄物をテーマにステークホルダーの場づくりと政策提案をしている環境NPOです。全国各地で循環型社会づくりに取り組んでいる地域、行政、企業の活動を、人・情報・こころでつなぎ、連携協働による課題解決をめざしています。</p> <p>当NPOの初代代表、前理事長及び、現在の理事長は、国や都の環境、廃棄物関連の審議会委員を務めており、常に最新情報に触れる機会があります。また、各分野の専門家、学識経験者、事業者等の人脈があります。</p> <p>事業としては、3R市民リーダー育成講座、古紙・家電・自動車リサイクル、リチウムイオン電池分別排出、食品ロス削減、プラスチック水平リサイクルの普及啓発事業、TOKYO2020 レガシー報告会、市民向け環境塾などを実施しています。</p> <p>自治体との連携では、2014年度から、相模原市、国分寺市、さいたま市、越谷市、千葉市、松戸市、荒川区、新宿区、町田市、柏市、市川市で3Rの普及啓発の「にない手」の人材育成事業を実施。また、文京区、越谷市、さいたま市、大和市、神奈川県等で、環境やごみ減量委員の研修会の講師実績もあります。イベント出展では、エコライフ・フェア、子どもとためす環境まつり、エコプロ、東京都暮らしフェスタ、東京都食育フェア、その他多数の出展経験があります。</p> <p>2021年4月に新宿区から世田谷区に事務所を移転したことから、世田谷区での新たな活動を希望しています。</p>

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体は、次のページもご記入ください。

※昨年度に提案型協働事業を実施した団体のみご記入ください。

6 昨年度の世田谷区提案型協働事業の効果など	(1) 昨年度の協働事業の効果・実績	
	(2) 昨年度の事業内容と比較して、新しい点や工夫した点など	
	(3) 協働事業を継続する理由	

事業実施スケジュール

※適宜、罫線を入れるなどして見やすいように作成してください。

時期	内容
2023年6月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代、学生等からの事前ヒアリング ・内容の確認、プログラム案作成 ・講師の選定、依頼 ・会場の選定 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・アイデア出し、内容の検討 ・子育て世代、学生等からの事前ヒアリング
7月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・内容の確定 ・資料等作成 ・チラシ作成 ・第1回広報開始 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・内容案まとめ
8月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・資料等完成 ・第1回参加受付中 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・内容の確定
9月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> 第1回セミナー開催 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・試作確認、修正
10月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第1回セミナーアンケートまとめ ・第2回セミナー準備 ・チラシ作成 ・第2回広報開始 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・完成、公開開始 ★中間報告書作成
11月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第2回参加受付中 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・公開中 ・アンケート回収
12月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・第2回セミナー開催 ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート回収
2024年1月	<ul style="list-style-type: none"> ■セミナー <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートまとめ ■デジタルコンテンツ <ul style="list-style-type: none"> ・アンケートまとめ
2～3月	★成果報告会

事業収支予算書

【取入】

費目・内容	金額 (円)	積算内訳
補助金	500,000	
自己資金	110,840	
合計	610,840	

【支出】

費目・内容	金額 (円)		積算内訳	
	事業予算額	うち補助金申請額		
人件費	①セミナー開催	210,500	175,000	①3,500/人時×作業工数55時間 企画、資料作成、講師依頼、当日運営 その他当日アルバイト3,000円×3名×2回 ②3,500/人時×作業工数24時間 企画・台本等作成協力、 ヒアリング資料作成・まとめ ③3,000円/人時×作業工数12時間 ホームページ更新、メール発信、 広報用チラシ作成・印刷・配付 ④3,000円/人時×作業工数8時間
	②デジタルコンテンツ作成 協力	84,000	84,000	
	③広報 (情報発信)	36,000	36,000	
	④報告書作成	24,000	19,000	
	[小計]	354,500	314,000	
報償費	①講師謝礼	90,000	60,000	①講座講師謝礼 @30,000円×3人 (資料作成費、交通費含む) ②事前ヒアリング @5,000円×7人 (交通費含む)
	②企画会議・ヒアリング謝礼	35,000	35,000	
	[小計]	125,000	95,000	
消耗品・ 備品費	①事務用品	5,000	3,000	①用紙等 ②記録媒体等及び mottECO購入代金@200円×80個 ③講師用お茶、水等 (打ち合わせ、当日)
	②講座用物品	20,000	10,000	
	③講師飲料代	1,000	1,000	
	[小計]	26,000	14,000	
複写・ 印刷費	①広報用資料印刷	28,000	26,000	①講座チラシ等 (配布用) チラシ×2,000枚 @5円×1,000×2回 (カラープリント) ②講座資料、打合せ資料
	②その他資料印刷	16,000	10,000	
	[小計]	44,000	36,000	
郵送・ 広告・ 保険料	宅配便	8,000	8,000	講座物品送付往復4,000円×2回 資料郵送@140円×10
	郵便	1,400	1,000	
	[小計]	9,400	9,000	
使用料・ 賃借料	①会場使用料	20,000	3,000	①会場使用料 (セミナー×2、企画・打ち合わせ)
	[小計]	20,000	3,000	
交通費	①デジタルコンテンツ作成 協力	13,580	11,000	①打ち合わせ×3回、その他2回 @1,600×5、@600×5、@860×3 ②講師打ち合わせ+当日×2回、その他3回 @1,600×6、@600×6、@860×6
	②セミナー開催	18,360	18,000	
	[小計]	31,940	29,000	
その他				
	[小計]	0	0	
合計	610,840	500,000		

☆この事業収支予算書は、今回提案する事業に要する予算を記入するものです。団体の年間予算を書くものではありません。

☆日常の運営経費 (団体等の日常運営の人件費、事務所賃借料、光熱水費、日常運営に要する消耗品・備品費等) は対象外です。

団体の概要

団体名	NPO 法人持続可能な社会をつくる元気ネット				
所在地	〒157-0061 東京都世田谷区南烏山6-33-7 ダイカンプラザ1-506	電話番号	03-6300-5157		
		FAX	03-6300-5158		
代表者氏名	鬼沢 良子		役職	理事長	
事業責任者 ※住所、電話番号・ FAX、Eメールは 公開しません。	氏名	鬼沢 良子		役職	理事長
	住所				
	電話番号				
	FAX				
	Eメール				
設立年月 (活動開始年月)	平成8(1996)年5月(特定非営利活動法人設立:平成15年7月)				
役員等の構成 及び社員数 (会員数)	理事:5名 監事:1名 社員:10名				
主な活動分野	まちづくり、環境保全、循環型社会づくり、人材育成、ESD				
主な活動実績 *行政との協働 の実績を含む。	<p>元気ネットは、廃棄物をテーマに1996年に発足、ステークホルダーの場づくりと政策提案をしている環境NPOです。全国各地で循環型社会づくりに取り組んでいる地域、行政、企業の活動を、人・情報・こころでつなぎ、連携協働による課題解決をめざしています。</p> <p>当NPOの初代代表、前理事長及び、現在の理事長は、国や都の環境、廃棄物関連の審議会委員を務めており、常に最新情報に触れる機会があります。</p> <p>3R市民リーダー育成講座、古紙・家電・自動車リサイクル、リチウムイオン電池分別排出、食品ロス削減、プラスチック水平リサイクルの普及啓発事業、TOKYO2020レガシー報告会、市民向け環境塾などを実施しています。</p> <p>自治体との連携では、2014年度から、相模原市、国分寺市、さいたま市、越谷市、千葉市、松戸市、荒川区、新宿区、町田市、柏市、市川市(2021年度)で3Rの普及啓発の「にない手」の人材育成事業を実施。また、文京区、さいたま市、越谷市、大和市、神奈川県で、環境やごみ減量委員の研修会の講師の実績もあります。イベント出展では、エコライフ・フェア、子どもとためす環境まつり、エコプロ、くらしフェスタ、東京都食育フェア、その他多数の出展経験があります。2021年4月に新宿区から世田谷区に事務所を移転しました。</p>				
団体の ホームページ	https://www.genki-net.jp/				

選定委員からの意見

事業名：ごみを減らしてSDGs & CO2削減！世田谷区民の行動が変わる普及啓発

- 地球環境対策として、CO2削減、ごみの削減は喫緊の課題である。この課題を「伝える」だけでなく「伝わる」ように工夫を凝らすなど、個人の行動変容を求めるセミナーとなるよう取り組みが求められる。
- 企画段階から、子育て世代・大学生など若い世代に呼びかけることが、世田谷区としてどのように将来にわたって「持続可能な社会」の実現に結びつくのか、検証してほしい。
- 提案団体は26年の実績がありつつ、この事業の2回のセミナーの内容は現時点では未知数といえる。区担当課と提案団体は、当区における課題を共有し、企画段階から意見を突き合わせ、協働されることを期待する。
また、デジタルコンテンツについては、著作権等の問題に配慮し、責任の所在を明らかにして制作してほしい。